

令和7年度バリューチェーン全体での脱炭素化推進モデル事業



～ 株式会社アクタス ～ 活動報告

Agenda

◆企業プロフィール

◆脱炭素化推進モデル事業

1. 参加背景

1-1 ACTUSの脱炭素化目標と課題

2. 取り組み内容と成果、課題

2-1 取り組み内容と課題・対処

2-2 取り組みの成果と今後の課題

3. 次年度以降の展開計画と活動計画

◆企業プロフィール

会社名 株式会社アクタス
 本社 東京都新宿区新宿2-19-1 BYGS新宿ビル 12階
 創業・設立 1969年創業、1972年7月アクタス設立
 資本金 5,000万円
 売上高 21,238百万円 (2024年11月期実績)
 従業員数 775名 (役員を除く/2024年11月現在)
 グループ会社 コクヨグループのインテリアリテール事業会社



● 直営店舗...36店舗
● 卸先店舗...35店舗
全国店舗...71店舗



事業内容

- ・直営店及び、レストラン、カフェの運営
- ・全国主要都市のインテリアショップへの卸売
- ・オンラインショップ事業
- ・オリジナルアパレルブランドの運営
- ・ハウスメーカー、マンションデベロッパー等への外商販売
- ・各種大型施設 (ホテル、公共施設、教育施設、オフィス) のインテリアデザイン、設計、施工

	ACTUS
<p>コクヨグループ 環境目標 (SBT認定)</p>	<p>・コクヨグループでは、「2028年までに『購入した製品・サービス』によるGHG排出量の12.5%に相当するサプライヤーにSBT目標を設定させる」という目標を掲げており コクヨグループとして2030年までにScope3を25%削減</p>
<p>アクタス 取組背景 (SBT準拠)</p>	<p>・弊社は2020年からGHG排出量算定に取組み、コクヨグループの連結会社として SBT認定を取得、SBT準拠の削減目標、を設定</p> <p>・下記目標を掲げながら、主要サプライヤーにCO2排出削減取り組みを要請し、調達商品やサービスの質を保持しつつ、木工家具製造におけるCO2排出量削減を実現させる手法開発</p>
<p>アクタス 参加目標</p>	<p>・弊社のGHG排出量全体の97%を占めるScope 3の中、60%を占めるカテゴリ1削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Scope3カテゴリ1を2028年までに1.6万t/CO2削減 (2022年比) ・Scope3カテゴリ1を2030年までに25%削減 (2022年比)
<p>一般家庭向け 家具インテリア 販売業としての 課題</p>	<p>・Scope 3 排出量を削減する上での課題は、サプライヤー自身の算定による排出量把握と排出量の削減支援と協力による一次データの確保と削減及び共同歩調以外に手段がない</p> <p>・2024年実施のアンケート調査でGHG未算定企業が過半数有り、算定調査支援が必須課題</p> <p>・自社体制不十分・経験不足・スキル不足 ⇒右記、テクニカルスキルを体得すること</p> <div data-bbox="1538 1205 2354 1382" style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"> <p>テクニカルスキル</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 取引先企業への意識醸成方法 ② ツールの提供などの算定支援方法 ③ 取引先企業と連携して取り組む削減施策の検討 </div>

2-1 取り組み内容と課題・対処

時代遅れの家具インテリア業界の意識変革へ道筋作り

	取組内容/検討項目	課題/対処
1	サプライヤー向けに脱炭素化推進を動機付ける ※気候変動による将来リスク、社会（顧客）の変化、世界のGHG排出削減情勢の共有	事業活動上の優先事項→業績優先、売上拡大優先からの思考転換、調査・算定活動への意識の薄さ(やらされ感)払拭に向けた意識醸成と情報共有
2	Scope 3における15カテゴリの算定対象となる範囲の理解徹底の為、解説と質疑応答のルーティン化 ※推進会合(Q)⇔事務局会合(A)⇔推進会合(A)	構成企業業容（木工家具、繊維製品、商社等）と形態から、海外拠点事情（法規制の違い等） →隔週での事務局とのQ&A、F.バックでカバー
3	「算定フォーマット」への入力データ調査方法・対象 →Scope1,2,3算定の為の調査対象の明確化 →カテゴリによって異なる原単位の選定と運用の違い	算定基準となる原単位の維持管理と適正な改訂 →特に海外拠点の原単位のコントロール手法修得 ※具体的には、IGESデータ運用
4	サプライヤー自社のGHG排出量算定結果からの排出削減目標設定へのプロセスおよび手法 ※算定遅延企業担当の苦悩 → 経営陣の推進承諾要求	3社の算定実績分析→主要削減項目の把握 対処: 製造工程別に削減施策分析と現場情報共有 →分析ポイント:電気使用に繋がる設備の実態検証

稼働課題

木工家具業界のGHG削減取組み課題 = 家庭用木工家具製造の主材料が「木材」であること?

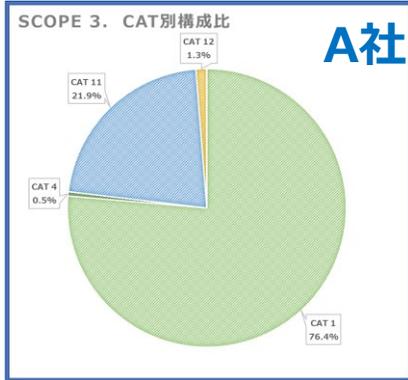
→木工家具サプライヤーとGHG削減を追及すると製造工程の細分化過程で明確になった課題。

- 一般的に、森林で育つ樹木は育成過程において「CO2を吸収、O2を排出する」といわれ、伐採後に製材となっても「CO2排出せず、保持する」という特性を持ち、Scope3 カテゴリ1では主要材料である。製材）が意外に大きなGHG排出量を占めるとの現実に戸惑いを実感。

___それ以外の削減施策による効果は限定的となるのか? → 活動しながら模索中 = 環境省とも共有済み

2-2 取り組みの成果と今後の課題

パートナー企業3社 (A社総合商社/B社木工家具製造/C社布地・布製品製造)の中、
 実質算定完了確認済み。強化カテゴリ把握 **エンゲージメント計画** 着手済み。



成果

国内外の企業間の取引を仲介、取扱う製品が多様でScope3 Ct.1 排出量が大半占有、且つ特定顧客向けサプライヤー占有率高く、弊社向けサプライヤーに絞り、**サプライヤーエンゲージメント計画立案、推進(3月合意目標)**

課題

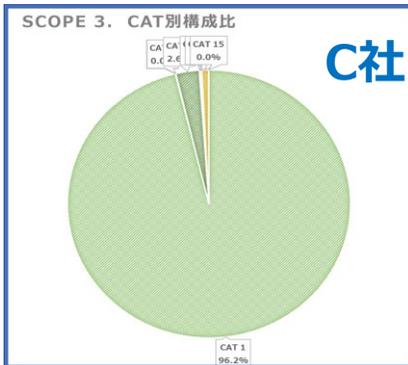
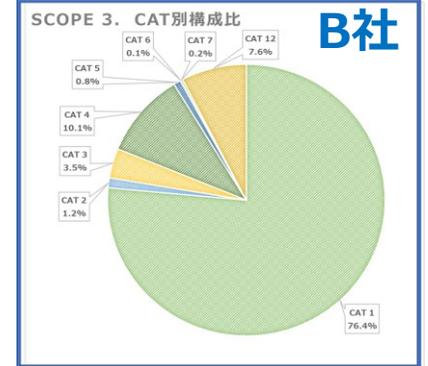
● Scope3の削減において弊社向けサプライヤー限定での両社情報共有、削減活動の実行では(弊社はいいが)A社自体の排出削減効果が薄い中、実行の持続性を維持、促進できるか!?

成果

家具メーカーはScope3 68%、Sc2 32%、原材料(木材)の削減は見込めない(*前述)が、製造工程で用いる工作機械の省エネ策と工程の歩留り改善、**工程別の作業効率化を狙う「エンゲージメント計画」合意**

課題

● Scope2削減に繋がる、製造工程における各種機械の消費電力量調査と共に材料のムダ削減と機械使用上の省エネの啓蒙など、削減施策の詳細な打ち手を強化



成果

布製品工場が24H稼働で電気使用量も多いが、グループ各拠点で繊維を加工、製造するための材料=外部調達する「合成繊維」の排出量が大半を占めたため、その調達先との削減施策がカギ ※2026/2/06までに国内+海外1拠点の算定データ収集済み(海外3拠点算定中)

課題

● Scope3 Ct.1の調達材料=合成繊維が圧倒的排出量のため、大手調達先へのヒアリング必須。繊維加工・製造工程を細分化、各削減施策の割り出し、工場スタッフとの協働削減施策など、課題山積

3. 取り組み成果 ⇒ 今後のエンゲージメント推進プラン

ACTUSインゲージメント主活動

既にGHG算定に取り組んでいる **26社** → A
 取り組む予定 **11社** / 未算定 **4社** → B

モデル事業3社含み、24年～25年にかけてGHG算定取り組みを呼び掛けた成果

△ ** t-CO2削減への合意
 暫時、サプライヤー削減合意書を獲得へ

2027
12月

GHG算定実績の取り纏めと削減目標
 アクタスScope3 カテゴリ1 排出量への反映と削減行程の再確認

Scope 3 算定/削減 手法
 ・カテゴリ解説&説明 ・データ収集と算定
 ・Scope 3 削減目標の設定方法を学ぶ ⇒ 意見交換

Scope 1, 2 算定/削減 手法
 ・削減への具体的手法
 ・各社に見合った手法をヒアリング&協議

2026
6月

GHG未算定企業向けセミナーと算定実習
 Scope 1, 2の算定実務講習（複数回）実施

両グループ別にアプローチを開始

注カポイント
 ① サプライヤー社内の脱炭素化推進意識 / 組織構築
 ② 利益と削減対策の相互バランス
 ③ 社内の腹落ち感の醸成

25年度アンケート評価/フィードバック面談
 ・サステナ調達アンケート本意 ・脱炭素化推進支援

ACTUSサステナブル調達基準と環境施策周知
 第1回インゲージメントサプライヤー説明会
 サステナブル調達方針アンケート意図及び気候変動対策

現在
時点

環境省脱炭素化推進モデル事業
 各社の削減目標の設定と削減計画立案/効果検証/
 行動協議 ⇒ モデル事業の成果取りまとめ

ACTUSサプライヤー エンゲージメント計画への反映